



クッシング症候群（副腎皮質機能亢進症）

■ 病気の概要

体の調子を整えるホルモンであるコルチゾールが副腎から過剰に分泌される病気です。約85%は脳下垂体の腫瘍が原因（下垂体性）、約15%は副腎腫瘍が原因（副腎性）です。プードル・ダックスフンド・ビーグルなどの中高齢の犬に好発します。進行はゆっくりですが、放置すると糖尿病・感染症などの合併症を引き起こします。

■ 主な症状（飼い主さんが気づくサイン）

- ・水をたくさん飲む（多飲）・おしっこが多い（多尿）
- ・お腹が膨らむ（太鼓腹）
- ・脱毛（左右対称）・皮膚が薄くなる
- ・筋力低下・運動を嫌がる
- ・皮膚の石灰化（硬いしこり）
- ・感染症にかかりやすい

■ どんな検査をするの？

- ・血液検査・尿検査（尿中コルチゾール/クレアチニン比）
- ・ACTH 刺激試験（コルチゾールの測定）
- ・低用量デキサメサゾン抑制試験
- ・腹部超音波検査（副腎の評価）
- ・必要に応じてCT 検査（専門施設をご紹介します）

■ 治療方法

内科治療

- ・トリロスタン（副腎のコルチゾール産生を抑制する薬）の内服
- ・定期的な ACTH 刺激試験（投薬量の調整）
- ・合併症（糖尿病・高血圧・感染症）の治療

外科治療

- ・副腎腫瘍（副腎性）の場合、副腎摘出術（専門医と連携して対応）

■ ご家庭で気をつけること

- ・薬の飲み忘れや急な中断は危険です。確実に続けてください
- ・皮膚の傷・感染症を早めに発見・治療
- ・定期的な体重・飲水量の記録
- ・疲れやすい・ぐったりしているときはすぐ受診

■ よくある質問

Q. 完治しますか？

A. 下垂体性は薬で長期コントロールできます。副腎腫瘍は手術が根治につながります。

Q. 薬の副作用はありますか？

A. トリロスタンはコルチゾールを下げすぎることがあります。定期検査が欠かせません。

Q. 症状は改善しますか？

A. 多飲多尿は早めに改善することが多いです。脱毛や腹部膨満は数ヶ月かかることがあります。

■ なつ動物病院での診療について

ホルモン検査と超音波検査を組み合わせで診断します。副腎腫瘍には専門医と連携して外科治療も対応できます。「お腹が出てきた」「水をよく飲む」などが気になったらご相談ください。

なつ動物病院 気になることがあれば、予約外でもお気軽にご来院ください